

翻刻・『慧日山東福禅寺行令規法』

著者	尾? 正善
雑誌名	鶴見大学佛教文化研究所紀要
号	4
ページ	55-75
発行年	1999-04
URL	http://doi.org/10.24791/00000530



翻刻・『慧日山東福禅寺行令規法』

尾崎 正善

はじめに

本論において翻刻する『慧日山東福禅寺行令規法』（以下『慧山古規』と略す）は、現在内閣文庫（国立公文書館）所蔵の資料で、その成立年代および内容の特徴に関しては本年の『鶴見大学紀要』第四部・第三六号（一九九九年三月刊行）の『慧日山東福禅寺行令規法』について¹において詳しく論究した。本清規の存在はすでに白石虎月編『東福寺誌』（思文閣出版・昭和五年初版、昭和五十四年復刻）において紹介されているが、その翻刻部分は「年中行事」の一月分と後書き、さらに「僧堂」の項のみで、全文の紹介を行っているわけではない。さらに、その引用を参考に鏡島元隆氏が「清規史上における『瑩山清規』の意義」（『瑩山禅師研究』六六三頁）において本清規と『瑩山清規』との比較を行っているが、引用該当箇所との比較に止まっている。

『慧山古規』の成立年代は、本書末の文保二年（一一三二）の年号、さらに永正二年（一五〇八）の了菴桂悟（一四二五～一五一四）の奥書より、文保年間の住持である東福寺第十世直翁智侃（一二四五～一三三二）が編集し、永正年間の住持である第一七一世了菴桂悟が書写したものであることが知られる。

『慧山古規』と諸清規との前後関係は先の拙稿でも示したが、本清規成立以前に日本で成立した清規は、永平清規（嘉禎三（一二三七）～宝治三（一二四九）成立）のみであり、本清規のような「年中行事」を中心として、各寮舎の諸注意、各種法要の差定・回向をまとめた構成の清規はそれまで日本で成立したことが確認されていない。なかんずく『瑩山清規』の構成とも多くの類似点が確認され、曹洞宗の清規を勘案する上でも先行する日本の清規として、特筆すべき存在である。さらに本清規の内容は、円爾（一二〇二～一二八〇）の径山参学時代、もしくは帰朝直後の東福寺で定めた規矩の集大成である可能性もあり、その記述内容は成立時期を大きく遡る可能性も考えられる。

さらに、神祇思想の取り込みなど、多くの点でそれまでの清規と異なり、『慧山古規』は様々な問題点を提示していると言えよう。

本論は、あくまでも翻刻紹介を通じて広く『慧山古規』を知らしめ、清規研究の一助に益することを主たる目的とするものである。本清規の構成・特徴等に関しては先の拙稿を参照していただきたい。また、本清規の形状・内閣文庫の請求番号等の諸事に関しても先の拙稿で報告したので、本論では特に記述していないことを予め御容赦願いたい。本翻刻により、今後の清規研究及び曹洞宗の基礎的清規である『瑩山清規』研究に寄与できることを切なる希望とするものである。

最後に、本資料の閲覧及び翻刻を御快諾下さった内閣文庫関係者一同に対し一言記して謝意に代えたい。

凡例

- 一、本論は、内閣文庫（国立公文書館）所蔵、『慧日山東福禅寺行令規法』の翻刻である。
 - 一、翻刻にあたっては可能な限り忠実に行い、頁分け・改行箇所・空白等は全て原本に準じた。
 - 一、傍注・ルビに関しても、原本に忠実おこなった。また、双行形式の部分に関しても原本に準じた。
 - 一、踊り字（々）に関しても、原本の俣とした。
 - 一、字体の相違もできるだけ原本通りとした。
声―聲・礼―禮・仏―佛・首座―首坐・上座―上坐等。
- しかし、俗字・略字に関しては全部、あるいは部分的に字体をあらためたものもある。
- 歟―欵・船―舩・衆―衆・帛―帛・經―經・嚴―ム・愆―愆・倣―倣等。
- 一、虫損等で不明の文字は字数に応じて□・「」で示した。また、本清規書写の時点で不明であり、書写をしなかつたと思われる箇所に関しても「」で示した。
 - 一、「（）」で示したのが丁数である。なお a b は表裏を示す。
 - 一、句読点は、便宜的に筆者が付した。原本には、句読点・返り点は一切ない。
 - 一、三〇丁裏から三二丁裏にかけて、朱書きの傍注がある。朱書きの部分に関しては、⊕で示した。
 - 一、他の清規との字句の相違・校異は示さなかった。脱字に関しても、特に指摘しなかった。明らかに写誤と思われる箇所に関しては、傍注を付した。
 - 一、先の拙稿において欠丁はないと思われる、と記したが、二十九丁目以降に欠丁が想定される。ここに訂正を記したい。

慧日山東福禪寺行令規法（内題）

(2 a)

年中行事 正月修正榜

孟蘭盆看經榜二 亡僧結緣看經榜二 歲末看經榜

大帝誕生榜 菩薩戒布薩式 亡僧茶毘式

尊宿茶毘式 唱衣式 皇帝念誦

無常念誦 結解楞嚴會經文 寮元座元四節式狀

施餓鬼文（1 a）

慧日山東福禪寺行令規法

年中行事

正月

初日。後夜、知事頭首西堂大耆旧小師侍者行者

等、同詣方丈人事詳見清規。開靜以前大鐘鳴時、堂司歟

使行者報上堂、諸寮掛上堂巡堂等兩牌於堂前。

粥罷聞鐘聲、就大佛殿祝聖諷經大悲咒消災咒。同諷誦

尊勝陀羅尼七今無反此式。次聞鐘聲、土地堂諷經大悲咒消災咒。

又聞鐘聲、祖師堂諷經大悲咒。亦聞鐘聲、祠堂諷經

大悲咒。即時就方丈兩班大耆旧點湯。復聞鐘聲、赴

常樂庵諷經楞嚴。聞鼓聲、上堂、下座、兩班西堂耆

旧侍者小師行者等人事與後夜同。大眾就庫院、往知

事所人事。次就僧堂前、首坐人事。首坐上間。大眾下間。

巡堂本位而立、首座以下次第巡堂、各臘……

庫子唱曰、首坐。知事入堂、燒香大展三拜……

禮謝。大眾答拜。唱曰、知事禮謝。大眾答拜。住持人入堂。鳴鐘……（2 b）

堂頭和尚禮謝。大眾答拜。三下。

請客侍者、安排香炉盆榜等、往首座……

請首坐特為到堂貼榜上間。次鳴閣上鐘、就羅漢閣羅

漢供供養禮儀、自初日至七日、可同之。請客侍者齋時板鳴時節、

燒香三拜、問訊巡堂一匝。齋退點茶詳見清規。

禮罷都寺維那侍者、各具威儀往諸頭首寮、請秉

拂秉拂牌、拂子等獻之。頭首使行者掛牌於堂前。

次聞鐘聲、詣大殿諷經楞嚴咒大悲咒。昏鐘鳴秉拂秉拂罷、就（3 a）

方丈兩。齋了就羅漢閣、修正看經大般若經·金剛經·普門品·消災呪、到七ヶ日終。

班點茶。

- 二日 粥罷就大殿諷經楞嚴。次聞鐘聲、土地堂諷經大悲。消災呪。各三反。知事茶禮詳清。半齋、尊勝陀羅尼七反。晚間諷經楞嚴大悲。逐日諷經、除土地堂諷經可知。
- 三日 首坐茶禮詳清。齋了聽鐘聲、就好明峰……
- 并土地堂諷經各大悲咒一反 (3 b)
- 四日 火德諷經大悲咒。消災呪。書記茶禮。開浴。
- 五日 上堂。祖堂諷經楞嚴。藏主茶禮。
- 七日 入堂侍者告報、與上堂式同之。羅漢供終。修正看經滿散就仏殿。
- 八日 念誦。齋了維那使堂司庫子報方丈并頭首諸 (4 a)
- 寮掛念誦巡堂兩牌。時至打諸板念誦。唱曰、皇風永扇云。巡堂禮儀詳清規。但侍者全巡堂。或略巡堂
- 九日 粥後諷經、罷佛智藏山兩忌諷經。或就塔頭楞嚴神咒 開浴。
- 十日 上堂。打板坐禪或十六日。出布薩羅。
- 十一日 粥罷諷經、了赴衆寮、々主進退。
- 十二日 佛心忌。就塔頭楞嚴咒、或就祖堂半齋 (4 b)
- 十四日 開山大檀(マ)那準后大師諷經。就祠堂、大悲咒
- 十五日 後夜小師等、詣方丈人事大展或三拜。或九拜。祝聖諷經。
- 粥罷就方丈侍者茶兩班大。耆旧。齋罷都寺茶〔 〕
- 次聞鐘聲、布薩就法堂。晚間諷經、祝聖回向。今無此式
- 十六日 土地堂諷經大悲咒。消災呪。無為忌。就祖堂、楞嚴咒 (5 a)
- 十七日 入堂今無此式、為開山忌事繁。粥後諷經、罷赴常樂庵諷經楞嚴。
- 半齋就祖堂諷經楞嚴。
- 十八日

火德諷經大悲咒。消災咒。念誦或略巡堂。大德諷經了就

圓明寺殿下忌諷經大悲咒。

十九日

韋馱天諷經就庫院大悲咒。消災咒各三反。(5 b)

廿日

上堂

廿一日 赴衆寮、々主進退。

開山大檀那光明峰寺禪定殿下之忌就祠堂。楞嚴咒。

大檀越禪定殿下誕生日祈禱。就山門閣金剛經・觀音經・消災咒同音

晚頭就于佛殿滿散楞嚴咒。有疏文。

廿二日

癡兀忌就祖堂。楞嚴咒。最明寺殿忌半齋就法堂。楞嚴咒。(6 a)

廿五日

上堂。佛照忌就祖堂。楞嚴咒。

廿六日

月船忌或就塔頭楞嚴咒。或就祖堂。最勝園寺殿忌半齋就法堂。楞嚴咒。

廿七日

入室。

廿八日

念誦。無常。或略巡堂。(6 b)

廿九日

開浴。

晦日

布薩。与月望同之。

大凡十二月中之行事、以正月為大綱、但七箇日羅

漢供以為年始之祈禱也。自二月至臘月、以初一日

行之。上旬放禪以事繁故也。自二月至臘月、使六次

浴日放禪。望晦日之晡時參以有布薩之事放之。每月(7

a)

初一日、以羅漢供已時坐禪自放之、五々上堂、朝諷

經免之。三七入室、同免之。三八念誦、四季土地堂念

誦、四節衆寮諷經之日、佛殿晚間諷經免之。初一月

半祝聖諷經同點。茶。初二、十六土地堂諷經。初四、十八

火德諷經。十四、十八、廿一檀那諷經。五々上堂、六次

開浴、三七入室、三八念誦、五々晚間唱參者等。

月可知余月。此外勤行、新添太多。(7 b)

二月

一日

後夜小師上方丈。或三拜、或九拜。

十五日

涅槃會。早朝維那掛牌照牌云、聞鐘聲各具威儀、齊詣釋迦寶殿。殿主使

行者莊嚴寶殿、安排手炉等。上堂罷就寶殿住持(8 a)

燒香、兩班出班問訊。然後大眾同一面為列大展

三拜、兩班立本位。知事點茶湯。住持胡跪、知客離

位、執手炉獻住持。侍者持香合、隨住持右肩獻香。

維那展坐具胡跪而披疏文了、知客接手炉。維那

歸位諷誦楞嚴咒經初唱云、南無本師釋迦牟尼佛。諷經了回向。

廿一日

開山大檀那光明峯寺殿遠忌。半齋聞鐘聲、就法

堂諷經楞嚴咒。齋僧布施等行之。齋罷雲「」。 (8 b)

三月

三日

節供齋僧。齋罷雲堂點茶。或開浴。

十八日

無準禪師遠忌有大夜規則諷經、楞嚴咒。當日早朝掛牌。牌昭

半齋聞鐘聲、各具威儀。就法堂傳供出班問訊大眾禮拜。齊就于潮音堂。

與涅槃會同之。齋僧布施行之。齋了雲堂點茶。(即か)時兩班就

法堂點茶。或開浴。(9 a)

四月

一日

貼草單於堂前。浴佛偈書六紙分貼東西「」。下。

齋了請楞嚴頭。四日、法光寺遠忌。

八日

佛生會早朝掛牌。昭牌、聞鐘聲、各具威儀、齊詣于釋迦寶殿。上堂罷就「」。 (9 b)

規則與涅槃會同。但諷經以前行灌沐……。

齋了維那掛念誦牌於堂前昭牌就。不掛巡堂。

齋了掛點湯牌牌面書云、今晚殿主比丘某甲。或浴主行礼晚

佛殿念誦如例。但念誦以前、出班問訊可有無拜

排被位。

十一日

謝掛搭礼就法堂

十二日 (10 a)

小坐湯就法堂行禮 晚間維那掛諷經牌、於堂前。

昭牌、來早粥罷聞鐘聲齊詣釋迦寶殿、啓建楞嚴勝會

十三日

早朝掛牌、昭牌改。來早二字 堂司報諸寮鳴諸板楞嚴會有疏齋

罷寮元安排盆香炉狀等、請維那充特為。晡時

牌安排合寮清衆坐位。特為點湯詳清。湯禮……規

持兩班大耆旧西堂等、入寮諷經。寮主唱之

十四日 (10 b)

維那侍者寮元等、安排戒臘牌花瓶香〔 〕

時至大衆燒香禮拜。齋了掛念誦牌。昭牌土地堂

排盆香炉榜等、往首坐寮請首坐、充特為湯。

於堂前。下間 念誦。時至如例鳴板就土地堂有疏。出班問

訊。念誦罷諷誦大悲咒消災咒燒紙錢。便打鼓入堂點

湯都寺行禮。湯罷就常樂庵諷經楞嚴。又此日齋了侍

者報住持、掛小參牌。參了兩班大耆旧、就方丈點茶

十五日 (11 a)

粥後除尊勝陀羅尼、与歲節同之。但上堂以後大

巡察詳清。規

十六日

都寺齋了茶礼有榜。請前板充特為。佛印忌。

十七日

前堂首坐茶礼有狀。請後板充特為。

十八日

後板茶礼。十九日、書院茶礼。廿日、藏主茶礼。

(11 b)

五月

五日

節供齋僧、齋了雲堂點茶。

九日

藏山忌。預於八日念誦了、掛諷經牌於堂前。昭牌聞鐘聲、赴于永明菴諷經楞嚴咒。有大夜禮儀。就法

堂榜。或掛諷經牌、齋前赴塔下楞嚴咒但依住持行此規則。半

齋、就法堂出班問訊兩班禮拜、諷誦大悲咒。或楞嚴咒

施主齋僧。(12 a)

十六日

無為忌、規則准藏山忌。但不赴……

廿二日 日輪寺殿宗鑑禪門半齋

六月

一日

半夏齋僧點心。齋了雲堂點茶。

廿六日

月船忌、准上件祖師忌。(12 b)

七月

一日

出孟蘭盆看經榜而置堂前下間。寫施餓鬼文。六紙

貼東西兩廊。自此日至于十四日、在衆寮看經。

其間放禪。(13 a)

七日

節供齋僧 或點茶。 齋了雲堂點茶。

九日

佛智忌、准上件祖師忌。

十二日

小坐湯。規則同于結夏

十三日

早朝滿散楞嚴會 規則与。結夏同。 凡自今日至〔 〕(13 b)

十四日

小參了、就三門施餓鬼 有疏。 諷誦經楞嚴咒四面□

廊万燈會。 十五夜万灯會

十五日

解夏(14 a)

八月

八日

東山忌。早朝掛諷經牌於堂前。 昭牌聞鐘声、齊。赴于圓通院。 諷經

罷就三聖寺。齋僧但維那不赴圓通院、遣知客唱

楞嚴咒。維那赴三聖寺而以當寺清衆名字排□

僧堂下間。

廿七日 天柱忌(14 b)

九月

九日

節供齋僧、齋了雲堂點茶。上堂。

廿八日

長樂寺上野開山遠忌。半齋就法堂諷經。楞嚴咒。齋

僧行布施、齋了雲堂點茶。開山國師、圓寂後亡此繩則

(15 a)

十月

一日

開炉齋僧。

五日

初祖忌。大忌。准無準忌。但有疏。、七日、南山忌。

十五日 (15 b)

冬安居齋僧。

十六日

參罷赴常樂菴諷經。楞嚴咒。大夜就法堂楞嚴咒、

自余法則准無準忌。

十七日

粥後就法堂諷經。楞嚴咒。半齋諷經、齋僧布施以

下繩則、准無準忌。

廿六日 (16 a)

最勝園寺殿遠忌。半齋就法堂楞嚴咒。

十一月

冬至隨曆。定日。前後繩則与余節同之。(16 b)

廿二日

癡兀忌、准上件祖師忌。

最明寺殿遠忌。半齋就法堂楞嚴咒。

廿四日

智者忌。中忌。半齋就法堂楞嚴咒。

十二月 (17 a)

一日

出正月七ケ日羅漢供差定而貼佛殿露地石柱。

八日

佛成道會、後夜上堂。今无此儀。時節准如常上堂。聞鐘

聲、就寶殿諷經、繩則与佛誕生同之。但无浴。佛法則晚間

就寶殿念誦、与佛生會同之。

十二日 (17 b)

佛心忌、准上件祖師忌。

廿五日

佛照忌、准上件祖師忌。但不赴栗棘庵

廿八日

小坐湯

廿九日

早朝出正月修正看經榜、貼佛殿正面、使衆看之。

衆寮特為點湯諷經。

禮儀与
自余同

(18 a)

晦日

土地堂念誦、大坐湯、常樂庵諷經、小參。

右年中四節之繩則、大概如斯、凡四序規法佛生

會涅槃成道會祖師忌檀那忌等、為叢林之規

矩、一々不可默止故記。開山規繩之外新添規則

数件審之。(18 b)

僧堂

高聲語笑賣買等雜事、看經看文批判公案等諠

事、安筆硯置外書等事、齋前放參後開函櫃事、凡

於堂裏背諸制法、破衆之意等事、一々不可恕之

現住頭首維那等、時々檢點故有違犯之輩可止

共住。

衆寮

常住經論語錄雜文字等、皆是為雲水之輩也、而(19 a)

衆僧莫容易受用。如有借用之仁者、寮元宜注名

字何州縣人事先與之一卷部類具足而莫与之。

若有破損之仁者、宜令辨備之。凡莫出寮外何況

於寺外乎。湯瓶茶盞桶盥等雜物、副寮一旬知之。

如有損失之副寮可辨之。寮元・寮主・副寮・望寮

等、各々守自役、勿欠犯。每朝普請問訊不可有怠

慢。為衆僧故記。(19 b)

浴室

浴主守六次浴日、調澡浴之具、隨人多少定番、次

更休乱衆僧依番。次赴浴勿高聲語笑談論涎唾。

凡後生敬耆宿。々々者哀後生是則僧衆和合之

謂也。若違者不入來浴室。

諸寮

兩班等者守各所役。盡勿犯壞寮内(作か)為長止諠

鬧宜事寂靜師姑女人等、至來必須知時。奴力々(20 a)

々莫違先覺之規範。

僧衆

僧家者以和合爲本。私莫存隔意、外護百丈之規
繩、內慣先德之高風、二六時中孜孜勿慢各勤、精
進如救頭燃、煩惱漸々断除、佛法時々現前。

行者

齋粥供仕五々喝參每朝於行堂尊勝陀羅尼。夏

中供花放參了誦經等、一々不可闕、如止住寺〔 〕

(20 b)

以行爲宗相逢僧衆、以禮爲先爲後世所記如斯。(21 a)

慧日山東福禪寺公用榜

山門 修正祈禱看經榜

伏以鳳曆開端正三十六旬之滋始、葭灰應律肇二拾

四氣之光容、當萬物之維新、聿脩厥德祈千祥之駢集

宜反其誠謹遵常規處輯清衆恭就于、消災保安^上

道場、自初一日至七日、逐日看閱、大乘聖教秘密

真文。所鳩善利、仰讚十方常住三寶果海聖賢、次

伸祝貢、護持正法梵天帝釋功德大辯四大天王(22 a)

切利夜摩四禪八定龍神聖衆、今年歲分主執陰

陽權衡造化賞善罰惡一切聰明、南方火德災感

火部聖衆、戊申本命建生星君、癸卯本命元辰

吉凶照臨乾象、日本國伊勢天照大神、當寺護伽

藍神、五社大明神、諸眷屬衆、祇園牛頭天王、北野

天滿自在天神、住吉大明神、熊野大權現、松尾大

明神、皇城鎮守諸大權現明神、關東守護二所

大權現、三島大明神、富士淺間大菩薩、諏訪上下大(22

b)

明神、宇都宮大明神、羽黑大權現、各宮侍衛神祇山

林界相守護神祇、厨司韋馱天神、監齋使者、主湯神、

明修造方隅禁忌神將、惣祈禱會上無邊賢聖。所冀、

革故鼎新、以往清寧先願、時清道泰、風調雨順、五穀

豐稔、萬民樂業、寰中無兵革之憂、天下獲豐登之慶、

山門肅靜。魔障頓除、緇流無纖粟之憂、佛日增輝法

輪常轉、大檀越禪定殿下、相模太守平朝臣^{高時}

身宮康泰增壽福、無難無災、樂昇平四時、無一點之(23

a)

殃、八節有大來之慶、家門均慶長幼又寧、三寶諸天
乞垂加被四恩三有、六道群生、同圓良因、具列功課。
品目于后。爲國爲民、祈禱至誠、焚修不可拒辭。

大般若經 排班清衆六十人名字

金剛經 各人每日三卷 清衆名字

普門品 大悲咒 消災咒

右具如前、各々聽鐘上寶閣、看誦不可致怠慢、上達

聖聰以彰感格、伏請 三寶證明、諸天洞鑑、謹榜(23 b)

今月 日 堂司 某甲 榜

又

山門 自正月初一日至初七日、逐日三時輪番。

上殿課誦真詮處修懺法所鳩善利、仰讚常住

三寶果海聖賢、祝獻、護法持平正法梵天帝釋、四大大

王、切利夜摩、四禪八定、護法諸天大權真宰、三界萬

靈十方至聖、今年歲分主執陰陽權衡造化善惡聰

明、南方火德星君火部聖衆、檀那某本命元辰(24 a)

吉凶星斗、或大宋土地神等、日本國伊勢大神宮、當山土

地八幡大菩薩、賀茂大明神、稻荷大明神、春日大明

神、日吉山王各宮侍衛神祇、護伽藍合堂真宰、日

本國六十余州大小福德一切靈神。當坊此境山林

界相守護神祇、厨司韋馱尊天神、監齋使者、主湯火神、

明修造方隅禁忌神將、總祈禱會上無邊賢聖。所

冀、革故鼎新、以往清寧孚祐國土昇平、寰中無兵革

之憂、天下獲堯豐之慶。山門肅靜。魔障頓除、緇流(24

b)

無纖擾之災、檀信啓歸崇之志、佛日瞬日、萬古齊輝、

祖風堯風、四海共扇。專祈、本寺大檀越禪定殿下、

相模太守平朝臣 某甲、永扶皇祚、外護宗社、綿百載

而擁休叶、四時而蒙福、闔門均慶長幼又寧、乃子乃

孫善根不退。三寶諸天、乞垂加被四恩三有、六道

群生、俱沐良因、同登佛道具列、功課品目于后。

合山清衆爲國爲上殿祈禱公界差撥不可

拒辭。(25 a)

正旦日 某時上殿看經衆 當上殿者聞

鐘聲齊赴同音經罷方可歸寮

某位 排班清衆名字

某咒 同上

懺悔 昏鐘鳴 同上

右具在前、各々依番、次第聞鐘聲上殿、焚修不可怠慢上達、聖聰以彰感格。伏請

三寶證明 諸天炳鑒 謹榜 (25 b)

今月 日 堂司 某甲 榜

又

洞明玄奧、無一時不轉此經、欲洗愆瑕、謹三業須憑

禮懺、⁽²⁴⁾腦門著地、紺殿裏弗是別人、玉軸解縑、破句中

何妨了義、沉蘭若昧正修之法、聯唱爲高嗟、扶桑無

擯斥之規、恣情者衆今則 元正啓祚、革故鼎新、祈

四序以無魔俾 合山而有慶、爲一切人懺除罪垢、

要光審自懺之端、於五七日讀誦經文、當格了此經 (26 a)

之經此經既了、罪性亦空廣大、功勳徧周法界、無

一神不霑利濟、無一國不受豐饒、佛日舜日、萬古

齊明、慈風堯風、四洲同扇、大上皇壽齡永固、外

護宗門、聖天子寶祚長榮、鎮安社稷、此山清衆

大智朗然、信心檀那合門均慶四恩三有、六道群

情、俱沐良因、齊登覺岸者。具列、功課品目于後。

自正月一日至七日滿散、每日三時上殿真讀經文、

繼修、法華妙懺、聞鐘聲當番者不可怠慢、同音經 (26 b)

了方可還寮當修懺、兄弟各々辨至、誠心禮拜、則須

展坐具五躄投地、是名真修。若以此朝儀式、蹲而不

禮者非但無功。聖典中亦無此格其中不問老幼、

怠慢不到者七日後便請出山。堂司可時々檢察。

正月旦日日七日中五日、誦經修懺兩日供養羅漢、以

高々絕妙之音而爲佛事。

某經 某咒 清衆名字

結夏草單式 (27 a)

結夏在近、欲排清衆戒臘、如有差誤、請添削之免致

紊亂矣。

威音王戒

陳如尊者 堂頭和尚 同行 因臘次排班清衆名字

孟蘭盆結緣看經榜

竊以破微塵而出此經、々々雖無能轉所轉之量、退

寸步而契是人、々々實有自利々佗之分矣。因茲當

乎吾佛解制之日、衆僧自恣之辰、一衆隨意轉讀(27 b)

經咒。所集殊勳、普濟群類同霑利益。具列、功課

品目于后、五部大乘經 某經 某咒

右具在前伏望、清衆各々結緣至誠看讀、庶自利

々佗其功無盡上件、經咒自恣之日、具疏奏猷伏

請 三寶證明 諸天洞鑒 謹勝

今月 日 堂司某甲 榜

又

女子貪生、誰念百楹之累、尊者證果、難尋長夜之因、

(28 a)

踢開大劫之關、報効劬勞之苦、食未入口化成火炭。

誰無我母、目連大叫聲動天地、誰無此身、以今觀昔

彼我何殊、一經普報幽冥七世、俱離苦趣。具列、功

課品目于后。某經 某咒 同上

亡僧結緣看經榜

洞明此事、視死生而如幻、未達其源、被去來而爲滯。

叢林聚首、道義居先、疾苦縈纏、當懷憂而訪問、幻軀將謝、

宜操履而感情、念祖道以凋零、扶持者寡、歎納僧与(28

b)

希有、喪失者多、各表微誠、助資覺性、不拘多少、隨意

看經、逐七具疏、奏呈聊旌眷德之志。某甲上座乘此

善功一念光中、觀釋迦無生國裏逢弥勒。謹具、功

課于后。某經 某咒

右具在前伏丐 衆悉 今月 日堂司某甲榜

又

續佛慧命、當了死生、道眼未明、還隨冥趣。須憑衆力

課誦經文、隨意結緣、莫論多寡、初七乃至終七々日、

(29 a)

各展微誠、助資某甲上座、不滯化城、真登寶所。具列、

功課品目于后。某經 某咒 同上

歲末看經榜 但在當寺無此式

歲末在近謹屈、合山清衆結緣看經誦咒、祝猷

護持正法諸天諸仏、三界萬靈十方至聖、今年歲分

善惡聰明、檀那某本命元辰、本寺護伽藍清衆、

總日本國諸大明神、修造方隅禁忌神、將盡祈禱會

上無邊靈貺仗、此功勳普伸回向先願革故鼎新以。(29 b)

(一丁欠か)

菩薩戒布薩法則

降伏魔力音 除結盡無餘 露地擊犍椎 比丘
聞當集 諸欲聞法人 度流生死海 聞此妙響
音 盡當雲集此

布薩偈

持戒清淨如滿月 身口皎潔無碍穢 大眾和合
無違諍 尔乃可得同布薩

淨水偈 (30 a)

八功德水淨諸塵 灌掌去垢心無染
無缺犯 一切衆生亦如是

□_(執持標か) □_(執持標か) □_(執持標か) 戒

香湯偈

香湯薰沐澡諸垢 法身具足五分充 般若圓照
解脱滿 群生同會法界客

浴籌偈

菩薩聖僧衆 凡夫衆和合 香湯浴淨籌 布薩
度衆生 (30 b)

唱白 鳴槌一下

敬白、諸佛子等合掌、至心聽。維南閻浮提大日本國

山城州北京慧日山東福禪寺僧伽藍所、我本師釋

迦牟尼佛遺法弟子出家在家菩薩等、自惟、輪回生

死長遠則依不遇無上世尊、今生若不發出離心者、

恐還流轉故、於此日同崇三寶、渴仰大乘、衆共宣傳

菩薩戒藏、願以此功德、資益龍天八部威光自在、今上

皇帝聖化無疆、太上天皇國母儲君、福延萬歲、傳陸 (31

a)

殿下、文武百官、福壽增長。開山大檀那禪定聖靈莊

嚴報地、一草一葉諸檀施主、各願圓滿、師僧父母、滅

罪生善、隨喜見聞、宿障水解、三塗四趣、罪業霜消。我

等誓出娑婆、法界有情與同歸華藏。 下一槌

諸佛子諦聽、此菩薩戒藏者、三世諸佛菩薩同學、衆

中未發菩提心、未受菩薩戒者出。 下一槌

諸佛子諦聽、衆中未發未受者已出。汝等自今身至佛

身於其中間能捨邪歸正、斷惡修善、持菩薩戒、行善 (31

b)

薩行否。 下一槌

諸佛子諦聽、衆中誰小、々者守護。 下一槌

諸佛子諦聽、外有清淨大菩薩者當入。 下一槌

諸佛子諦聽、衆中小者已守護。 外有清淨大菩薩已

入、內外寂靜、無諸難事、行籌廣堪可爲佛事、願上中

下座、各次第如法受籌。 下一槌

受籌偈

金剛無碍解脫籌 難得難遇如今果 我今頂戴 (32 a)

歡喜受 一切衆生亦如是

還籌偈

具足清淨受此籌 具足清淨還此籌 堅固棄捨^下

無闕犯 一切衆生亦如是

諸佛子諦聽、此一住处、一布薩衆出家菩薩。 若干

各於佛法中、清淨秉持、和合布薩、上順佛教、中報四

恩、下爲含識、各念釋迦牟尼佛。 下一槌

清淨如滿月、清淨得布薩、身口業清淨、而乃 (32 b)

應布薩。

諸佛子諦聽、奉請當寺和尚菩薩大士爲衆說戒、梵音某

上坐、戒師登高坐。 下一槌

散花偈

散花莊嚴淨光明 莊嚴寶花以爲帳 散花宝花

徧十方 供養一切諸如来

戒香偈

戒香定香解脫香 光明雲臺徧法界 供養十方 (33 a)

無量佛 見聞普薰證寂滅

三禮 下一槌

一切恭敬、自歸依佛、當願衆生、体解大道、發无上慧、

自歸依法、當願衆生、深入經藏、智慧如海、

自歸依僧、當願衆生、統理大衆、一切無礙、

上來說戒功德讚嘆法界和南聖衆。

出堂偈 諸佛出世第一快 聞法奉行安穩快

大衆和合寂滅快 衆生離苦解脫快 (33 b)

送亡請衆詞在後
亡僧龕前念誦

切以、生死交謝、寒暑迭遷。其來也電激長空、其去也

波停大海。是日即有新圓寂^{某上坐} 生緣既盡、大命

俄遷。了諸行之無常、乃寂滅而為樂。恭哀大衆肅詣

龕幃、誦諸佛之洪名。薦精魂於覺路。仰憑大衆念

十佛名 大悲咒 回向

上來念誦諷經功德、奉為新圓寂某上坐資助覺靈、

莊嚴報地。伏願、神超淨域、業謝塵勞、蓮開上品之花、

(34 a)

佛授一生之記。再勞尊眾念、十方三世云々。

拈龕念誦

欲拈靈龕赴茶毘之盛禮。仰憑尊眾誦諸聖之洪名。

用表攀違上資覺路念。 十佛名

涅槃臺念誦

是日即有新圓寂某上坐。既隨緣而順寂。乃依法以茶

毘。焚百年弘道之身、入一路涅槃之徑。仰憑尊眾資

助覺靈。 南無西方極樂世界大慈大悲阿彌(34 b)

陀佛十声。上來稱揚聖号資助往生。惟願慧鏡分

輝、真風散彩。菩提園裏開敷覺意之花、法性海中

蕩滌塵身之垢。茶傾三奠香熱一炉。奉送雲程和南

聖眾。大悲咒。回向。上來念誦諷經功德、奉為

某上座茶毘之次、莊嚴報地、十方三世云々。

請小佛事式

山門請 為 新圓寂某上坐 下火 起龕 鎖龕

起骨 入骨 某寺某和尚小師 生緣某州人事(35 a)

行年幾歲 今月 日堂司 某 拜請

住持遷化式

喪儀執事節次 移龕 鎖龕 掛真 拈哀 奠茶

奠湯 對靈小參 提衣 起龕 門首奠茶

秉炬 拈骨 入骨 歸祖堂

龕前念誦

白大眾、堂頭和尚、已皈真寂、眾失所依、但念無常、

切勿放逸。仰憑大眾念。 十佛名 回向(35 b)

上來念誦功德、奉為某和尚、伏願曇花再發、重開覺苑之春、

慧日長明、永燭昏衢之夜、再勞尊眾念、十方三世云々。

拈龕念誦

金棺既拈、遶拘尸之大城、幢旛搖空、赴茶毘之盛禮、

仰憑大眾、誦諸聖之鴻名、用表攀違、上資覺路念。

十佛名

山頭念誦

雙趺示相、紹靈鷲之遺規、隻履西歸傲少林之垂範、(36

a)

全機隱顯、成法始終。仰憑大衆、資助覺靈。十聲。
上來稱揚寶号、恭贊化權、惟願體極光宗品位、頓超
於佛祖、用圀儀範、悲心成格於人天、收幻化之百骸、
入火光之三昧、茶傾三奠、香熱一炉、奉送雲程和南
聖衆。

唱衣念誦

浮雲散而影不留、殘燭盡而光自滅。今茲法唱用表

無常。仰憑尊衆、奉爲 新圓寂某人、資助覺靈往生淨(土か)□

(36 b)

念。 十佛名

鳴磬一下云

夫唱衣之法、蓋稟常規、新旧短長、自宜照顧、錢須足
陌、無以新錫相兼、磬聲斷後、不得翻悔、謹白。

唱衣了回向 大悲咒

上來大衆念誦并唱衣物功德、並用回向新圓寂某

資助覺靈、莊嚴報地、再煩尊衆念、十方三世云々。(37

a)

皇帝念誦 八日、十八日

皇風永扇、帝道遐昌、佛日增輝、法輪常轉、伽藍土地、
護法護人、本寺檀那、增福增壽、爲如上緣念十佛名

無常念誦 廿八日

白大衆如來大師、入般涅槃、至今日本國幾年已得
二千二百幾歲。是日已過命亦隨滅如少水魚斯有

何樂衆等、當勤精進如救頭燃、但念無常慎勿放逸、

伽藍土地、護法護人、本寺檀那、增福增壽、爲如上緣
十佛名

(37 b)

結夏楞嚴會 啓建
經文

尔時世尊 從肉髻中 涌百寶光 光中涌出

千葉寶蓮 有化如來 坐寶花中 頂放十道

百寶光明 一々光明 皆遍示現 十恒河沙

金剛密迹 擎山持杵 遍虛空界 大衆仰觀

畏愛兼抱 求佛哀祐 一心聽佛 無見頂相

放光如來 宣說神咒

解夏 (38 a)

阿難是佛頂光聚悉怛多般怛羅秘密伽陀微妙章

句、出生十方、一切諸佛、十方如來、因此咒心、得成無上、正徧知覺、十方如來、執此咒心、降伏諸魔、制（マ）法外道、十方如來、乘此咒心、坐寶蓮華、應微塵國、乃至、十方如來、傳此咒心、於滅度後、付佛法事、究竟住持、嚴淨戒律、悉得清淨。(38 b)

衆寮四節狀式

狀請

維那侍者洎合寮大衆

梅檀林守寮比丘 某 謹封

守寮比丘某 右某 啓取今晚就本寮點湯一中特為

維那相伴侍者 洎 合寮清衆聊表 某節之儀 伏望

衆慈同垂 光降 謹狀 今月 日 梅檀林守寮比丘某謹狀

狀請

後堂首座禪師洎大衆

首座比丘 某 謹封

首坐四節茶狀式

首坐比丘某右某 啓取今晨齋退就 雲堂點茶一中 (39

a)

特為後堂首座禪師洎 大衆聊旌某節之儀、仍請

諸知事伏望 衆慈同垂隆重 謹狀

今月 日 首座比丘某狀 (39 b)

施餓鬼法式

南無十方佛、南無十方法、南無十方僧、南無

本師釋迦牟尼佛、南無大慈大悲觀世音菩薩。三反。

曩謨三婆怛佗大誡哆婆路枳帝唵三婆羅々々々吽。七反。

南無多寶如來、南無妙色身如來、南无甘露王

如來、南無廣博身如來、南无離怖畏如來。三反。

神咒加持淨飲食、布施（河か）沙衆鬼神、願皆飽滿

捨慳心、速脫幽冥生善道、歸依三寶發菩提、(40 a)

究竟得成無上覺、功德無邊盡未來、一切衆生

同法食。願以此功德、普及於一切、我等與衆

生、皆共成佛道。十方三世云々。

送亡請衆詞 遍椎畢 擊椎一下

謹白大衆、今辰某時、普請送亡、除眞堂寮主外齊

可赴某處、白了鳴椎一下。(40 b)

文保二年仲冬下澣

住持〔華押〕(41 a)

不肖孫桂悟、何幸、夙緣

視篆以來三十余年間、

一十六回玷丈席、近年得

檢此簿、數紙焚蕩爛壞

漑甚、命工編秩調製、以

備後來觀覽、五々上堂、三

七入室、以降令聞者疑怪

古規、勿欺、住持人日夜披閱。

永正二年乙丑六月晦誌之(41 b)